



〒892-0841  
鹿兒島市照国町13-42  
カトリック鹿兒島司教区  
電話099 (226) 5100  
振込口座 02030-2-8359  
編集発行 教区広報部  
1部60円年間千共1100円



# 教会財産は福音宣教のために

## 経済問題評議会で司教が解説

教区における教会財産を管理する「鹿兒島教区経済問題評議会」が6月1日(土)午後、教区本部会議室で開かれ、2018年度の決算報告、2019年度の予算案が審議されたほか、今後の教区財政の課題と展望についても意見が交わされた。

午後2時から始められた会議には11人が出席。まず今年度から同評議会評議員に任命された信徒委員2人に中野司教から任命証が渡され、その後、委員たちの紹介があった。

その後、司教は教会法に照らし合わせて、「鹿兒島教区における財産管理が常識に則って実施されている」という印象を持っていることを報告、また同評議会の



新メンバーを加え開かれた経済問題評議会

「愛徳のわざ、貧しい人への奉仕など」に使われているかという点。中野司教は「経済問題評議会」では、これらを押さえた上で財産を管理し、提言して欲しいと願った。

役割について解説した。同評議会の役割について解説するにあたり、司教は「教会の財産が福音宣教に使われているかが肝心」と前置きした上で、福音宣教への教会財産の使用について、三つのキーワードをあげた。司教が示したキーワードの一つは神への礼拝のために使用されているか、もう一つは聖職者の生計を支えるものであるか、そして聖なる使徒的活動

「今年度の評議会で異議深かったのは今後の教区会計に

ついての検討に時間が割かれたこと。その結果、来年度からは同評議会開催までに会計監査を受けること、運営が苦しいとされる小教区について規定が曖昧であるため、その規定を整備することとなった。また教区司祭の給与や巡回教会の管理についても話が及び、今後現況を調査し司祭団、あるいは会計担当者を含めて話し合うことが望ましいと提言された。

鹿兒島教区で働く修道女たちで組織する教区修道女連盟の2019年度の総会と研修会が6月2日(日)教区本部であった。2018年12月31日現在で、教区

で働いている女子修道会数は8、修道女数は109。そのうちの約60人がこの日の総会と研修会に出席した。午前10時からの総会では2018年度の活動や決算、今年度の予算案が報告・承認されたほか新役員が発表された。その後は研修会があり、中野裕明司教が講師を務めた。教皇フランシスコの使徒的勧告「喜び

に喜べ」を演題に掲げた中野司教は、教皇ヨハネ23世から教皇フランシスコに至るまでのそれぞれの教皇の思想や特徴を解説したほか、第二バチカン公会議前後の教会の変化等について「少しづつ教会が現代社会に適合しようとしている姿」と話した。このほか福音宣教省からの「グノーシス主義とペラギウス主義に注意するように」との勧告について、それぞれの主義が持つ危険性について説明した。その後、昼食を挟んで第二講話があり、その後のミサで締めくくられた。以下は今年度の新役員(敬称略)。会長 頭島美保子(カリタス会)、副会長 エルハルド・ワルトラウド(レデンブートル会)、会計 岩下美代子(純心聖母会)、書記 小楠範子(純心聖母会)。



### 司教の手紙

皆様お元気ででしょうか。今年10月13日、14日に開催予定の教区シノドスのテーマは「教会の三つの柱(集まり、交わり、派遣される)を生きる」に決めました。神父様方のためにギリシャ語で言うところの「コイノニア」、アポストロスになります。日本語は「共に生きる」という意味です。日本語は「共に生きる」という意味です。日本語は「共に生きる」という意味です。

サに集まりなさい、という神の呼びかけを何人の人が意識しているでしょうか。「それは十分わかっています。でもこの世の生活のために優先すべきことがあるのです」と神様に弁明している次郎に、神の呼びかけが聞こえなくなっています。しかし別の観点から見ることもできます。実は、仕事や家庭の事情で、どうしても主日にミサに参加できない、しかし、聖書を

②コイノニア。この言葉は、交わりと一致という二つの動きを内包している一つの言葉です。日本語訳の一つには、共同体というのがあります。この言葉はわかったようで、実はわからないものです。なぜなら、交わりと一致という人間の行為がなければ、共同体は成り立たないといえるからです。このギリシャ語が、ラテン語になると一般用語では自治体、典礼用語になる

かし現在では、キリストと交わり、他者と交わり、という原則であることが強調されます。イエスが説く「ブドウの木とその幹の関係(ヨハネ15章)」を吟味すればよく分かることです。

③アポストロス。この言葉は、派遣という意味ですが、ポイントが、派遣主がいる、ということ。自分が自分を派遣するとは言いません。聖書の中でこの言葉の厳密な意味は、復活イエスの、12弟子の派遣です。イエスには72人の弟子を派遣する話もありますが、聖書ではアポストロスを使うときは、12人の弟子のことを指し、彼らだけにこの言葉を当てています。カトリック教会には、信徒使徒職という言葉があります。これは、信徒の身分でありながら使徒職を果たす、という意味です。つまり「全世界に行つて、すべての造られたものに福音を宣べ伝えなさい」(マルコ16・15)という、12使徒に与えられたこの使命に信徒が参与し、12使徒(12使徒の後継者は司教団)とともに働くことを信徒の使徒職、と言います。

### 「教会の三つの柱(集まり、交わり、派遣される)を生きる」

鹿兒島教区司教 中野裕明

読んだり、祈りをしたりして、心の渇きを満たしている。そんな人がいるかもしれません。それも信仰の行為だと言えます。なぜなら聖書は元来、神の呼びかけに答えていくイスラエル民族の歴史を描いているものだからです。換言すれば、神との対話の中で、困難な人生を切り開いて行く、そんな人々の生きざまが描かれているからです。

とコムニオ、つまり聖体拝領という意味になります。つまり聖体拝領によってキリストと交わり(一致し)、同じキリストを拝領するので、他の信者さんと交わる(一致する)ことになるというわけです。第二バチカン公会議以前は、キリストとだけ交わることが意識され、自分以外の信者さんとの交わりは、強調されていませんでした。し

かし現在では、キリストと交わり、他者と交わり、という原則であることが強調されます。イエスが説く「ブドウの木とその幹の関係(ヨハネ15章)」を吟味すればよく分かることです。

③アポストロス。この言葉は、派遣という意味ですが、ポイントが、派遣主がいる、ということ。自分が自分を派遣するとは言いません。聖書の中でこの言葉の厳密な意味は、復活イエスの、12弟子の派遣です。イエスには72人の弟子を派遣する話もありますが、聖書ではアポストロスを使うときは、12人の弟子のことを指し、彼らだけにこの言葉を当てています。カトリック教会には、信徒使徒職という言葉があります。これは、信徒の身分でありながら使徒職を果たす、という意味です。つまり「全世界に行つて、すべての造られたものに福音を宣べ伝えなさい」(マルコ16・15)という、12使徒に与えられたこの使命に信徒が参与し、12使徒(12使徒の後継者は司教団)とともに働くことを信徒の使徒職、と言います。

# 奄美の教会に活力を

## 報告 奄美地区宣教司牧を考える会

「奄美地区宣教司牧を考える会」が6月16日(日)午後2時から、マリア(古田町)教会で開かれた。会議には「宣教推進委員会」「典礼委員会」「青年司牧委員会」「教会学校委員会」「財政委員会」の5部会の会員約40人が集った。

会議では今回から初めて参加した中野司教が冒頭に紹介され、短い挨拶の後、各委員会から昨年度の活動報告がなされた。各委員会の報告は概ね以下の通り。

- ① 信者が教会に来られない理由として結婚・離婚の事情があることの認識(宣教推進委員会)
- ② 復活祭の合同ミサの反省と来年の復活祭の実施賛否(典礼委員会)
- ③ ユーキャン運営の実際。教会に一般の人が足を運ぶようなイベント企画。教会学校との合同企画。結婚式のお手伝いなど(青年司牧委員会)
- ④ 夏の教会学校キャンプ、教会学校クリスマス会実施(教会学校委員会)
- ⑤ 奄美災害基金からの4件の義援金の拠出(財政委員会)



### 中野司教が教皇謁見

中野裕明司教は5月20日〜28日までバチカンを訪問した。

バチカンで教皇フランシスコとの謁見などに臨んだ中野司教だが、23日〜25日には生命倫理に関する会議にも出席し、出生前診断や胎児の問題についての報告を受けた。

**(文芸)**  
短歌

吉野教会 中江 均

主の館風琴の調歌う会令和寿ぎ昭和のメロデー  
キリストの愛の教えを説く司祭耳に手を添え聴き入る信徒

国分教会 市来 房枝

晴れやかな新天皇の即位式御世安らかであれと祈りぬ  
遅咲きの杏の花の咲き初めて雀の番枝を揺らしぬ  
整はぬ鶯の音に交ざり聞く今年最初のホトトギスの音

## 奄美宣教再開と松永神父の金祝を記念 司教が9月に奄美市でのミサを希望

奄美大島における福音宣教は1891年にフェリエ神父によって始められ、順調に実りをつ結んでいった。しかし1930年ごろから全国的にカトリック排撃が始まり、奄美にある軍部の要塞が国防上の重要性を増してくると奄美でのカトリック排撃は全国に類を見ないほど激しいものとなっていった。そして1934年12月12日、ヒラリオン神父とレオンス神父が追放されると、途中、邦人司祭が奄美の信徒たちを励ますために長崎から来島することはあつたものの、司祭不在の試練の時代に入った。

試練の時代が終焉を迎えたのは1947年9月14日(日)のこと。カプチン・フランシスコ会のフェリクス、オーバンの2人の司祭の名瀬港上陸によって、出迎えた信徒たちは喜びに喜んだ。2人の神父と信者たちは早速「財団法人奄美天主教教会」を設置し、軍部に接収された教会財産を

### 教区代表者会議のお知らせ

テーマ 教会の三つの柱を生きる

日時 10月13日(日) 15時〜14日(月) 12時

場所 教区本部及びザビエル教会

内容 全体会、テーマ別の分科会、派遣のミサ

カリタスジャパン排除ZEROKキャンペーンリレー写真展が瀬戸神父様をお迎えして5月12日(日)母国教会で開催されました。

最初は「写真展」と言われても「何だろう?」という思いで、ピント外れな感じでしたが、写真を見たり、ごミサ後に瀬戸神父様の講話を聞いたりと、本当に胸が張り裂けそうになりました。世界には、いや日本の中でも今なお生活が苦しい人たちがおり、子どもの貧困も問題になってくるそうです。そういえば

の通り(敬称略)。

会長・松永正男(大島地区長)、副会長・久保正子、益満紀久夫、事務局・永田智博、星村文乃。

会議の終わりに中野司教は「1947年9月14日は奄美再宣教の日。記念するようになりたい。今年には記念日の翌日15日に奄美で記念ミサをささげ、その際、司祭叙階50年を迎える松永神父様のお祝いもできたらと思う」と希望を語った。

### 「徳之島便り」

### カリタスキャンペーンとバザー

ボランティアの一つ「子ども食堂」が頑張っているニユースなど見聞きします。が、それなのに私たちは物に恵まれ過ぎ、食べ物に粗末にしたりするなどしていません。今一度、気持ちを神様に向け、回心の必要性を強く感じます。

こんなにも恵まれた環境に



バザー準備会のメンバーたち

生活していることに「ありがとう」の感謝の気持ちと、今後の自分を少しでも「何かできる人」「神様に喜ばれる人」に変えられるようになりたいと思うことでした。

カリタスジャパンの活躍を祈り、これからも感動することをお伝えいただきたく思います。

6月2日(日)には教会のバザーが亀津幼稚園で開かれました。梅雨に入っていました。おまけに高齡化も進んでいる教会です。準備は大変でしたが、信徒一同が心を一つにして頑張ったおかげででしょうか、大勢の人が駆けつけてくださり、大成功の裏を皆で分かち合うことができました。教会だからこそ、人の痛み、苦しみ、喜びが伝わり、マイナス思考をプラスに導いてくださる神様がそこにおられることを実感いたしました。

取り戻すための活動に乗り出した。

6月16日の奄美地区宣教司牧を考える会に出席した中野司教は、同会メンバーにオーバン神父らと一緒に働いた信徒の子孫が数人いることに感銘し、奄美の教会活性化のためにも9月14日を「奄美宣教再開の日」として制定し、ミサをささ

### ブイジュ祭のご案内

19年間を奄美での宣教のために奔走し、瀬留共同墓地に眠るブイジュ神父と大島での宣教に尽力して下さった神父たちのために感謝の祈りをささげましょう。

日時: 7月14日(日) 18時(ミサは18時30分から)

場所: 瀬留共同墓地と瀬留教会

内容: 墓参の後、モニュメント前で祈り、その後ミサ

司式: 中野裕明司教

茶話会: ミサ後、教会で

けるなどしたいと希望を語った。出席委員たちの反応は、概ね良好だった。ところが、詳細については司教の「今年は9月15日にミサをささげ、その中で松永正男神父の司祭叙階50周年も記念したい」という意向を踏まえ、教区本部で検討し、奄美地区と調整し決定されることになった。

# 司教講話で神の国について学習

## 堅信もあつた今年のカトリック北薩大会

北薩地区の信者たちの親睦を図り研修する「カトリック北薩大会」が聖霊降臨の祝日の6月9日(日)午後開かれ、170人ほどの信者が会場となった川内教会(主任T・メニツヒ神父)に集まった。

午後1時から始められた大会ではまず主任司祭のメニツヒ神父が「この大会は年に一度の兄弟姉妹の集まり。心を一つにして神の国の証人になろう」と挨拶、その後大会のテーマでもある「神の国とその義を求めて」



受堅者に按手する中野司教

を演題に中野裕明司教が講演した。司教は、まず司教任命の打診を受けた時のエピソードを紹介し、司教の紋章、モットー決定についてマタイ福音書を用いて説明した。その後、司教はアウグスティヌス著「神の国」が書かれた当時の時代背景などを解説しながら、地上の国と神の国の違いを説明、その後、教区シノドスのテーマ「教会の三つの柱(集まり、交わり、派遣される)を生きる」についても、ギリシャ語が表現する意味から解説を加えた。



中野司教を囲んで記念撮影

## 信者たちと楽しい交流

### 中野司教が大熊小教区を訪問

長い連休明けの5月12日(日)、私たち大熊小教区の信者が待ちかねていた「中野司教様の公式訪問」がありました。午前9時30分

区の信者たちはもちろんのこと、谷山教会の信者たちも駆けつけたほか、北薩地区のベトナムやフィリピン、インドネシア国籍の信者たちも大勢参列した。ミサの中では「主の祈り」が日本語だけでなく、ベトナム語、タガログ語でも歌われるなど、国際色豊かな集いとなった。

ら、大熊教会に大勢集まった信徒とともに、小教区合同ミサがささげられました。ミサの中で司教様は「これからの司教としての仕事、現代の教育、宗教と道徳の違い、まだ生まれていない胎児の命の大切さ」などについて話されました。夕方からは伝道館で歓迎会があり、主任司祭タム神父様、信徒会長徳田克文さんの歓迎の挨拶に続いて、マリア会(婦人会)の準備した食事をしながら、にぎやかに楽しい時間を過ごしました。司教様が自己紹介で奄美(特に大熊小教区)とのかかわりを話されたことで、より身近に、親しみを感ずりました。また物まね名人の松原千

里さんが、ティエン神父様の声で登場し、昭和天皇玉音放送や上皇様、ヨハネ・パウロ二世世教皇様が来日された時の挨拶などを披露すると会場は大爆笑。お返しに司教様が素晴らしい歌声で「千の風になつて」を歌ってくださいました。最後は八月踊り、六調でにぎやかに閉会しました。

お忙しい中お出かけ下さった中野司教様に感謝申し上げます。今後のご活躍とご健康を小教区信徒一同心からお祈り申し上げます。

## 会と催し 7月

- 2日(火) みことばを祈る集い・ザビエル教会・10時
- 3日(水) 聖トマ使徒
- 4日(木) 栃尾泰英神父叙階記念(1993年)年間第14主日
- 7日(日) 年間第14主日
- 9日(火) 竹山昭神父叙階記念(1967年)
- 11日(木) 朴鎮亮神父霊名(聖ベネディクト)坂谷豊光神父命日(2006年)
- 14日(日) 年間第15主日
- 21日(日) ブイジュ祭・瀬留教会・18時
- 22日(月) 年間第16主日
- 22日(月) ユゼビウス神父命日(1979年)
- 23日(火) 聖マリア(マグダラ)
- 23日(火) 木村敏彦神父命日(2008年)
- 24日(水) ティエン神父叙階記念(2006年)
- 24日(水) カトリック幼稚園研修会・霧島市・25日
- 25日(木) 聖ヤコブ使徒
- 26日(金) 福岡英雄神父霊名
- 26日(金) 浜田盛茂神父命日(2013年)
- 28日(日) 年間第17主日
- 29日(月) オリープの会・教区本部・14時
- 29日(月) 福祉関連責任者会・12時・ザビエル教会

## 《康由神父の聖書教室(15)》

### 旧約聖書と新約聖書

を訴えたのです。この「民の腐敗、墮落」の具体的内容の一部が上述したものです。しかし、ミカは民が再び神様に立ち返ることができるよう「わが神は、わたし

の願いを聞かれる」(ミカ7・7)、「たとえ倒れても、わたしは起き上がる。たとえ闇の中に座っていても、主こそわが光」と力強く民を励まし(ミカ7・8)、そ

に導かれ、わたしは主の恵みの御業を見る」と謳いあげます(ミカ7・9)。このことを踏まえると、福音記者ルカは敢えてミカの結論とも言える肝心な箇所を抜かして、というところがわかります。なぜ、ルカはこれらの言葉を抜かしたのか、否、イエス様に語らせなかつたのでしょうか。それは当時の人にとって、この結論はあまりにも分かりきつたものだからです。

です。旧約と新約は二つで一つの聖書である、という観点がイエス様の御言葉を理解するにあたっては大切になります。

## 祈りの意向

- 【祈祷の使徒会】
- 世界共通 ゆるぎない正義
- 日本の教会 難民・移住・移動者と共に

【司教日程】 1日コレジオ会議(福岡)、4〜5日屋久島教会訪問、6日「シドゥチ神父の謎に迫る」シンポジウム(東京)、8〜12日臨時司教総会(東京)、14日ブイジュ祭(瀬留教会)、16日災害会議鹿児島、21日奄美カトリック女性連盟総会、22日知恵の泉、24〜25日カトリック幼稚園研修会、29日福祉関連責任者会

イエス様の言葉の中には不可解なものがあるからではありません。その中で、今回は「父は子と、子は父と、母は娘と、娘は母と、しゅうとめは嫁と、嫁はしゅうとめと、対立して分かれる」という言葉に着目してみよう(ルカ12・53)。実のところ、この言葉はミカの預言からの引用です。そこには「息子は父を侮り、娘は母に、嫁はしゅうとめに立ち向かう。人の敵はその家の者だ」と書かれています(ミカ7・6)。この言葉の背景にはバビロン捕囚がありま

# ウガンダの旅 2018

## ⑥キルヤングのチャイルドに面会

谷山教会信徒 岩崎正幸

ワールド・ビジョン・ジャパンを通じて貧しい国の子どもの支援を続けているラ・サール学園教諭の岩崎正幸さんは、昨年夏、支援している子どもがいるウガンダを訪問した。これは生徒のために執筆した「ウガンダの旅2018」の6回目。

支援地のひとつ、キルヤング地区をあとにして、ホイマのホテルへ。支援地からもっとも近いホテルが車で2時間。もうあたりは暗くなっていた。6台の車を連ねての移動。途中、車はぐれないよう、時々停車しては確認。ところが、われわれが乗っていた3号車、停車したあとエンジンが動かなくなるといふトラブル。そこでまたロスタイム。ホイマのホテルに着いたのは、もう9時くらいだった。このホテルに4連泊。着いてすぐ夕食。そして、さすがにこの日はもう眠るだけ。でも最後の力を振り絞って、シャワーと洗濯を済ませた。

翌7月31日、朝食6時30分。まだ薄暗い。昨日の朝、カンパラでも感じたのであるが、明るくなるといくすスピードが速い。緯度が低く、太陽が昇っていくコースが地面に対してほぼ90度になっているからなのだろう。この日も、キルヤング地区への訪問。この地区に支援チャイルドがいる参加者は、はいよいよ面会である。わたしの支援チャイルド、ナフリラちゃん、もうひとつのナラウエヨ・キシータ地区のため、この日は、Cさんの面会のお手伝いをする。お手伝い役は、写真を撮ってあげたり、通訳の補助をしたり。10時ころまたクラスタ事務局に寄り、いよいよ支援チャイルドとの面会へ。面会場所は、Tさんのチャイルド、プロヴィアちゃんのお宅だ。そのお宅、敷地が広く



プロヴィアちゃんのお宅の庭で昼食

て、家も立派な作りで、ちょっと驚く。ひよつとして、裕福なお宅？ だったらどうして支援を受けている？ そのあたりの詳しい事情はわからない。WV(ワールド・ビジョン)の支援金は、チャイルドが学校へ行けるように、という使われ方とともに、地域の援助にも使われるから、そういうこともあるのかも。ただ、さすがにそのお宅までの道は、とても狭く、車1台が通るのがやっと。マイクローバスでは無理。普通車での移動しか手段がないことを納得。Cさんの支援チャイルド

はエリザベスちゃん9歳。この地区の支援チャイルドでは最年少。個別の対面になり、あいさつのあと、Cさんがプレゼンテーションを渡す。そのようすをCさんのカメラで何枚も撮影。お手伝い役に徹する。Cさんは中部地方の高校の家庭科の先生であることを知る。その高校での写真など、エリザベスちゃんに説明。英語で現地語の通訳は、この地区のボランティアが担当。日本語は英語の翻訳は、Cさんとわたし、ああでもない、こうでもないの悪戦苦闘。ひととおり紹介などしたあと、遊びの時間。Cさんがもってきたボール遊びや、わたしがもってきた風船遊びをする。この風船、こどもたちには大人気であった。他にも風船を用意していた人たちも結構いて、とくに北海道から参加のIさんは、

300個くらいもってきたとかで、翌日以降もあちこちで大判振る舞いであった。日本からの出し物としてみんなが歌。「大きな栗の木の下で」と「幸せなら手を叩こう」を踊り付きで披露。準備なしでみんなできてるものといえばこんなところ。

ひとしきり遊んだあと、みんなが昼食。事務所のスタッフや現地のボランティアさんらによるこの地の料理。さつまいも、かぼちゃ、マトケバナナ(料理用一生で食べるバナナとは種類が違うようだ)黄色くならぬらしい、メイズ(とうもろこしの粉でつくる鹿兒島のかんのような食感)、ライス(インディカ米)、そしてソースは豆で作ったもの。さらに、チキン、すいか、ジャックフルーツ、黄色い

バナナ。チキンはひよつとするとこのようなきにしか提供されないごちそうなのかもしれない。チャイルドの家庭からプレゼンテーションのお返しも。このあたりの工芸品(手作り)や、果物などはいいのだが、なんとエリザベスちゃんの家から困り果てる。そこで、ここプロヴィアちゃんのお宅でポイントも分けてもらった。わたしも分けてもらった。生みたて、ポイルしたてはうまかった。贅沢。しかし、卵の黄身が黄色くないことを発見。以後、ウガンダで目にする卵の黄身はことごとく黄色くない。そのような種類の卵にわたりなのか、ある人曰く、栄養状態が悪いのか、それはわからぬまま黄色くないや黄身じやないね。何と呼ぶべきか。

「教会とは何か。答えはあるようでない。ただ、やはり人である。教会は建物ではない。装飾品ではない。ましてや制度や掟や法なんかではない。人々の心そのものである。教会は聖霊に息吹かれたイエスの弟子たちの共同体である。」

今年の3月、増田師は亡くなった。日本の「教区論」を先導してきた学者・司牧者であったことは残念である。謹んで、ご冥福を祈ります。(紫原教会山下和美)

▼社会問題の分かち合い(毎月第三土曜日)  
日 時: 7月20日(土曜日) 13時~16時  
場 所: 教区本部  
内 容: 原発・改憲・沖縄問題についての情報交換その他

### KJJP (鹿兒島正義と平和協議会) 通信 7月号

今から10年ほど前に、一冊の本に出あった。「カトリック神学への招き」(2009年発行)という本で、編者は上智大学神学部の准教授であった増田祐志神父(イエズス会)である。本書の目的は「信仰を生きる人が誰でも自分の信仰を理解できること」「カトリック神学に興味がある方が平易に理解できること」である。教会の勉強会でも活用してほしいと前書きに記してある。6部構成で、哲学・歴史学・聖書学・教義学・実践神学・現代の神学について各分野の専門家たち(主に上智大学神学部スタッフ)が、わかりやすく解説している。

特に関心を持ち、読んだのは、増田師が書いた最終章「現代の神学」であった。抽象的な言説として、イエスはキリストである、教会や秘跡がイエスの救いを仲介することを「理解」していても、どれほど自分にとって生きた信仰になっているのだろうか疑問を感じていた。頭の中の「信仰」と現実の「生活」が遊離していることに気づきながら、悶々としていたように思う。個人の霊的次元だけに「救い」を求めているのだろうか、という疑問に對するひとつの返答として「解放の神学」の思想が紹介されていた。「キリスト教が教える救いは: 社会・

政治・経済も含む全体的次元であり、その救いを仲介してこそ教会は「救いの普遍的秘跡」になりえる(301ページ)と書いてある。第二バチカン公會議の教区論にも適合していると思った。「キリストの教会は『貧しくさせられていく人々』: の声を聞く神に倣うという原点を人々に示したという点において、大いに評価されるべきであろう」(302ページ)とある。南米の「解放の神学」をそのまま日本に持ち込むことには限界があるだろうが、社会の現実に関わり、小さくされた者の側に立ち、いのちと人格の尊厳を貶めるあらゆる構造に声を上げることは、キリスト者の使命であると考えようになった。

その後、増田師は「カトリック教区論への招き」という著作を出版した。(2015年)本書は「常に浄化を必要とする教会(第二バチカン公會議)にもかかわらず、この教会への愛をもち、教会と共に神の国建設のために前進しようとするすべての人々の励ましとなること」を願い、書かれた。キリスト教は教会なしには存続しえないはずであるが、現実の教会は信徒に福音の喜びをあまり感じさせず、世間の人々には希望と期待を与えていないように思える。「キリストの教会とは何であるのか」という原点について考えさせ、教会への希望を与えてくれる内容である。特に「第六章 第二バチカン公會議」「第八章 教会の奉仕職」「第十章 教会と社会」から多くを学ぶことができた。本書のむすびが心に響く。

#### 教区福祉関連責任者会

日 時: 7月29日(月) 12時~17時  
場 所: ザビエル教会 ホール  
費 用: 3,000円 (当日徴収)  
内 容: 司教講話(13時)、その他  
主 催: 教区福祉委員会

#### 講演のご案内

テーマ: 教皇フランシスコのよるこび  
講 師: 阿部伸麻呂神父(サレジオ会)  
日 時: 9月1日(日) 10時30分~12時  
場 所: ザビエル教会聖堂  
※入場無料、どなたでも聴講できます。